

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 7 月 3 日現在

機関番号：82620

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370149

研究課題名(和文) 平安時代前期における神仏習合の展開とその彫刻に関する研究

研究課題名(英文) Study on Buddhist sculptures in the early Heian period from the point of view of the development of syncretization of Shintoism with Buddhism

研究代表者

皿井 舞 (SARAI, Mai)

独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所・文化財情報資料部・主任研究員

研究者番号：80392546

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：日本における初期神仏習合の実態を探るため、福井県の神宮寺や大分県の宇佐八幡などの文献学的調査や神像彫刻の実地調査をおこなった。また神仏習合の原理を理解するため、近年盛んになっている神仏習合現象の研究動向にそくして中国における神仏習合の実態がよくわかる四川省地域の習合事例を調査し、日本との比較検討をするための資料を収集した。

研究成果の概要(英文)：In this project, both philological investigations and field works on the early Shinto and Buddhist syncretism have been done in Fukui and Oita prefecture. Other than that, to understand principle of syncretism I surveyed several Buddhist caves in Sichuan region of China.

研究分野：日本美術史

キーワード：神仏習合 神像

1. 研究開始当初の背景

(1) 神仏習合思想の理解が大きく刷新された昨今、神像や神のためにつくられた仏像が、本来もっていた文脈を掘り起こし、信仰の実態と造形との関係を考察する必要がある研究段階に来ている。

(2) こうした状況を踏まえ、初期の神仏習合の動向を総体として捉えるためには、神像の発生という問題だけではなく、神宮寺などのためにつくられた仏像の双方を視野に入れた視覚をあらためて設定する必要があるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

(1) 近年の歴史分野における制度史研究と神祇思想史研究を十分に咀嚼したうえで、初期神仏習合現象の実態を明らかにしようとするものであった。

(2) 明治時代の神仏分離・廃仏毀釈により、神宮寺という神社に付随した仏教施設は若狭神宮寺を除くとなかなかはっきりとした形では残されていない。

発掘された遺構、景観や伝承、散逸した仏像など断片的な手掛かりを集めながら総合し、神宮寺における造形と祭祀のありようを復元的に考察したい。

3. 研究の方法

(1) 本研究では、まず神宮寺に着目した。神宮寺は、神像を安置する場合、仏像を安置する場合、神像・仏像の双方を安置する場合など、いくつかのパターンがある。こうしたパターンは、神仏習合思想のいくつかの類型と符合するか、もしくは神仏習合思想の歴史的な展開過程と軌を一にする可能性があったからである。

(2) 国家からの要請によって神仏習合が推し進められた事例を相対化するために、在地における神仏習合の様相も視野にいれることとした。

宗教的事由により、神像の調査は容易ではないため、ねばりよく実地調査の交渉をおこなった。

4. 研究成果

(1) 本研究では、福井・若狭神宮寺を中心に、最新の発掘成果などを参照しながら、その性格について考察を進めた。従来、初期の神宮寺といえば、遊行僧によって神仏習合が推進されて地域で地元からの要請により神宮寺が建立されたと考えられてきた。

ところがむしろ国家の関与が十分に考えられる事例があることが確認された。近年、歴史学においては、日本の初期神仏習合が中国からの影響にもとづいて進

展したとの見解が提出されて大方認められつつある。

本研究の調査結果は、こうした見解とも符合するものと言え、他分野の研究にも資するものといえるだろう。

(2) 中国における神仏習合とその日本への影響の問題については、歴史学ではもっぱら文献史料からのアプローチによるものであった。

そのため、中国における神仏習合の実態をさぐるため、中国・四川省に所在する石門山・南山・石篆山諸石窟を歴訪し、儒教や道教、あるいは在地仏教と仏教との習合した尊像に対する信仰のあり方について調査をおこなった。

特に石窟内の尊像配置から、現地の信仰状況をしるための基礎的な調査となった。

(3) 国家神として発展した神のひとつに、八幡神がある。京都の石清水八幡宮には、八幡信仰の基本資料である『八幡愚童記』について全巻撮影をおこなった。

これに先だち、京都府総合資料館にて「京都府古社寺取調調査」社寺明細帳付録をはじめ、各社寺の廃仏毀釈後の状況を確認した。

石清水八幡宮のある男山には創建当初より護国寺という神宮寺があり、その本尊は明治初期に淡路島の東山寺に移座されている。東山寺像は著名であり、これまでも調査報告はなされてきたが、平安初期彫像の年代観が刷新されつつある現段階にあっては、今一度確認すべき事項もあったが、さまざまな制約により実査は断念せざるを得なかった。

今後の課題として残されている。

(4) 調査を御許可いただいたいくつかの神像について、実地調査をおこなった。

神像については、近年ようやく『神像彫刻重要作品集』という資料の刊行がはじまったばかりであり、神像の基礎的な調査は今後も彫刻史における重要な課題となることが予想される。特に神像は在地社会とも密接にかかわる分野であり、彫刻を通じて在地支配の動向を知ることでも可能となってくるであろう。

実は在地社会をとおしてみた彫刻研究というのはあまり発展していない。縦割りによる専門分野が細分化されたため、荘園一つとってみても、歴史・美術・民俗・考古がいったいとなって調査すれば、より多くの発見が生まれるものと想像される。こうした視点を得たことが、本研究の成果の一つであり、ただちに大きなテーマに結び付くわけではないが、いずれ克服されるべき問題として認識されていくであろうと予想される。

本研究では岡山県や福井県の神像を熟覧したほか、石川県須須神社の神像を調査した。神像はシンプルであるために図像などがないように思われてきたが、近年では群像として残されている在地神の表現に注目が集まっている。顔の向きや体の向き、あるいは老若の表情で作り分けがなされる場合があり、在地の家族構成が神像の群像表現にも影響を与えている可能性がある。

(6)「社寺明細帳」を通覧し、近代以降の仏像彫刻の移動の詳細について調査をおこなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

皿井舞「平安時代の国家と仏像」
(伊東史朗監修『日本美術全集4 平安時代 密教寺院から平等院へ』小学館、2014年)

[学会発表](計4件)

SARAI, Mai Buddhist Wooden Sculptures in the Early Heian Period: From a Standpoint of Syncretisation of Shinto and Buddhism, The Third Thursday Lecture, Sainsbury Institute of the Study of Japanese Arts and Cultures in England, 2014.10.16

SARAI, Mai Buddhist Wooden Sculptures in the Early Heian Period, Heidelberg University, Germany, 2014.10.22

SARAI, Mai Buddhist Wooden Sculptures in the Early Heian Period, Free University of Berlin, 2014.10.26

皿井舞「仁和寺阿弥陀三尊像と宇多天皇の信仰」(第49回オープンレクチャー、東京文化財研究所、2015年10月30日)

[図書](計3件)

(共著) 皿井舞「趣旨説明 なぜ今かたちなのか」(東京文化財研究所編『「かたち」再考—開かれた語りのために—』(平凡社、2014年12月))

東京文化財研究所編『春日権現験記絵巻一・巻二 光学調査報告書』(東京文

化財研究所、2017年3月、総ページ数103頁)

奈良国立博物館・東京文化財研究所編『法華山一乗寺蔵 国宝 聖徳太子及天台高僧像 光学調査報告書』(東京文化財研究所、2017年3月、総ページ数167頁)

[産業財産権]

本研究は産業にかかわる研究内容ではないため、特許などの出願はない。

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]

ホームページ等。
所属機関では資料を蓄積、整理、公開するための施設があるため、所蔵者に公開してもよいと御許可いただいた資料については、施設内に保管することとした。

こうして収集してきた資料は、すべて所属機関の資料検索システムから検索することが可能となっており、調査成果は研究者のみならず、ひろく必要とする国民に開かれている。

6. 研究組織

(1)研究代表者

皿井 舞 (SARAI, Mai)

独立行政法人国立文化財機構・東京文化財

研究所・主任研究員

研究者番号：80392546

(2)研究分担者

()

研究者番号：

(3)連携研究者 ()

研究者番号：

(4)研究協力者 ()